３部　地域プラン

１　基本的な考え方

福井県内の各地域は、自然や歴史文化、産業など様々な分野において、異なる特性を持っています。

「越山若水」の言葉に象徴されるように、越前は風格ある山並みを配し、若狭は変化に富んだ海湖を擁しています。また、それぞれの地域が、先人たちの培った歴史遺産や伝統文化を守り、受け継いでいます。

産業面においても、各地域が気候や地形などその土地にあった農業・林業・水産業を発展させています。伝統的工芸品や眼鏡などのものづくり産業は、長い年月をかけて技術を集積させた卓越した産地を形成しています。

各地域が個性を伸ばすことは、県全体として、多様性ある魅力的な圏域を形成することにつながります。それぞれの地域が独自の機能や特徴を持ち、あわせて地域を結ぶ交通体系を整備することにより、地域の資源や強みを活かした連携につなげ、県全体としてのビジョンを実現していくことが重要だと考えます。

こうした考えのもと、第３部では、地域ごとの発展構想をまとめます。第１部で示した将来イメージの実現に向け、特色を活かしたまちづくりや観光、産業などの今後５年間の施策の方向性を示します。

【 地域プランと福井県高速交通開通アクション・プログラム 】

北陸新幹線福井・敦賀開業や中部縦貫自動車道県内全線開通など、高速交通の開通効果を高め、県内全域に浸透させるため、平成２８年３月に「福井県高速交通開通アクション・プログラム」を作成しました。

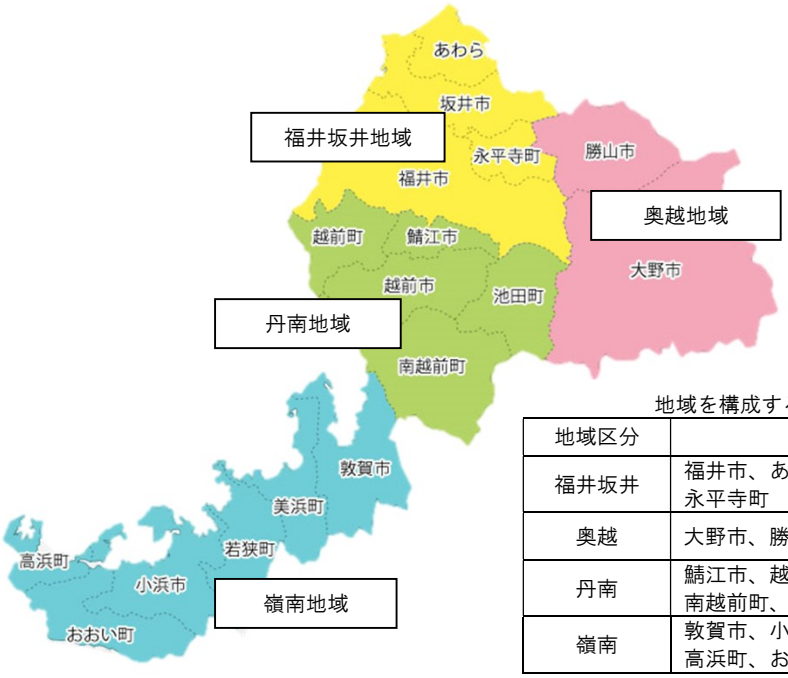
アクション・プログラムでは、県内各地域において実行する具体的なプロジェクトを、広く県民が認識・共有できるよう、その実施主体や場所、事業内容などをエリア別プロジェクト集としてまとめ、地図や工程表により分かりやすく図解しています。

第３部「地域プラン」では、各地域において今後５年間で進められる施策について、アクション・プログラムに記載のあるものだけでなく、まちづくり、観光、産業、インフラ整備・防災の観点から、各地域の特色を活かした施策について、市町が行うものも含め記載しています。

【 地域区分 】

地域区分については、暮らしや経済活動などの分野に応じて多様な捉え方がありますが、地域プランにおいては、自然的・社会的条件から一体性を有し、これまでも広域的な視点から行政が進められてきた４つの地域を設定します。

なお、産業政策や観光誘客など、それぞれの地域を越えた市町間の連携についても積極的に進めていきます。



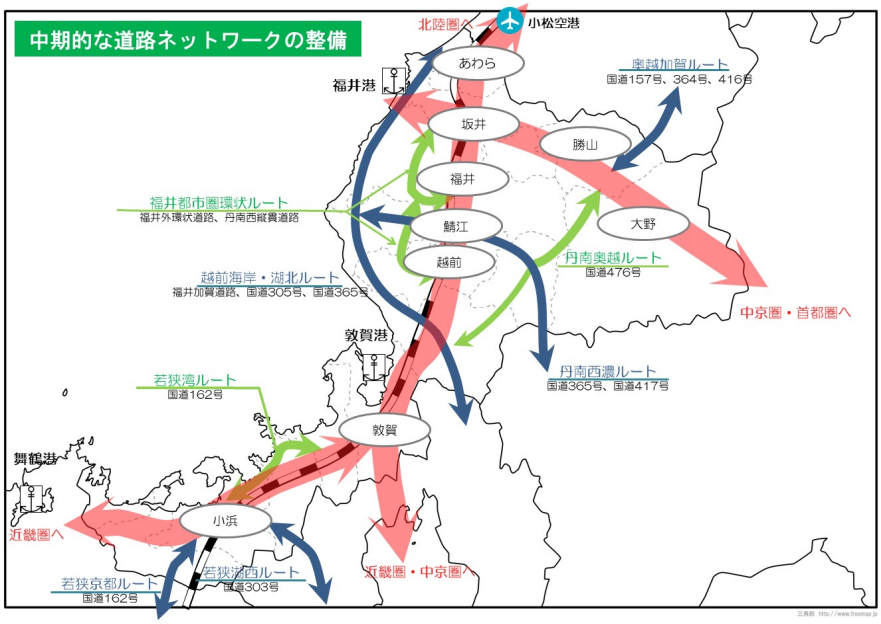
地域を構成する市町

地域区分	市町名
福井坂井	福井市、あわら市、坂井市、永平寺町
奥越	大野市、勝山市
丹南	鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町
嶺南	敦賀市、小浜市、美浜町、高浜町、おおい町、若狭町

【 地域を結ぶ交通ネットワーク 】

各地域における資源や強みを活かし連携していくためには、人流・物流の観点から、特に道路が果たす役割が重要です。

平成２９年７月に中部縦貫自動車道が大野ＩＣまで開通したことにより、県内の主要都市が高速道路で結ばれました。今後も、各地域の生活、産業、観光などを支える基盤となる道路ネットワークの整備を進めていきます。



２　各地域の方向性

Ⅰ　福井坂井地域

１　将来イメージ（2040 年頃）

○県都デザイン戦略に基づく歴史を活かした県都のまちづくりが進捗。永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡や三国湊、丸岡城などの歴史遺産、東尋坊、あわら温泉など、福井を代表する観光資源が集積する**歴史と自然が調和したにぎわいエリア**

○繊維や化学、機械などの企業、産業支援機関、大学などがオープンイノベーションの推進により、**革新的な技術や製品を生む未来産業創造エリア**

○県立大学や園芸カレッジ等による人材育成と、スマート農業、園芸導入による複合経営、食のブランド化により**新たな価値を生み出す食と農のプラットフォーム※エリア**　※総合基盤

○自動運転やＭａａＳ、オンデマンド交通※など、県民や観光客にとって**新たな移動手段が実現する先端交通エリア**　※利用者の予約に応じて運行される交通システム

○構成市町

福井市
あわら市
坂井市
永平寺町

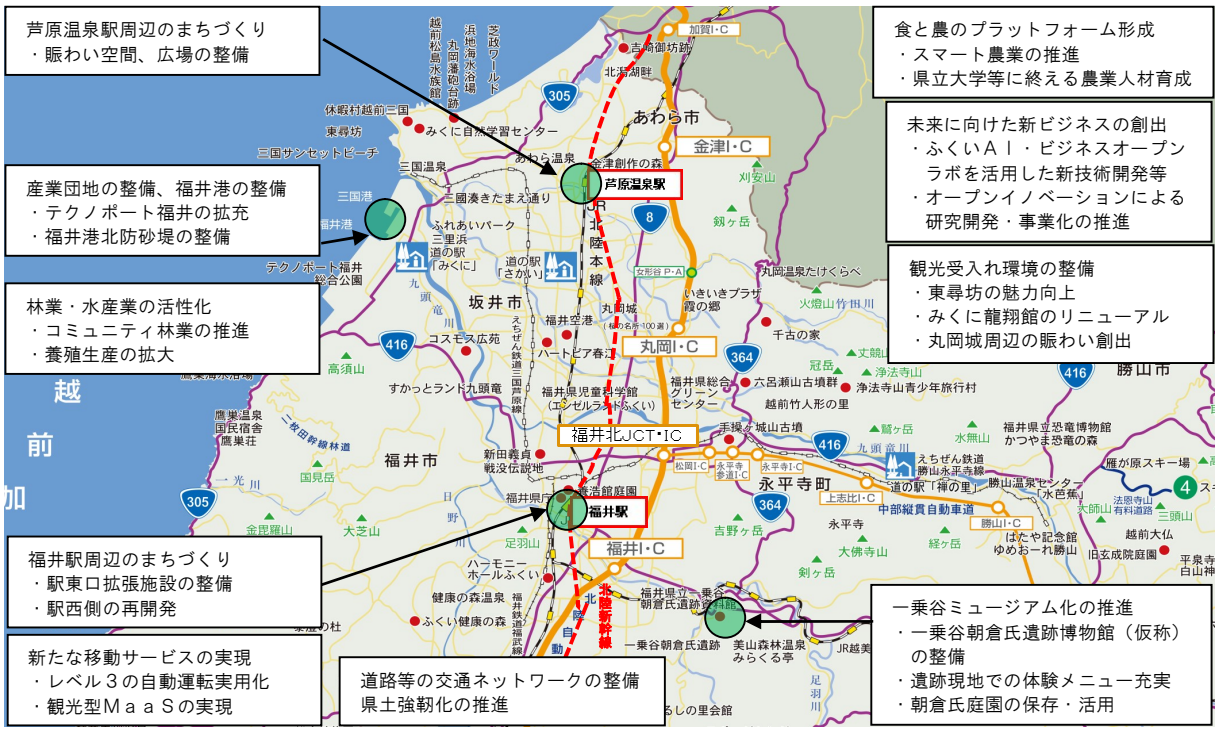
○主要データ

項　　目	データ（県全体に占める割合）	
面　　積	957.49 ㎢（22.6%）	※2019
人　　口	404,796 人（51.5%）	※2015
農業産出額	2,421 千万円（51.3%）	※2017
森林面積	50,600ha（16.2%）	※2018
製造品出荷額	93,257 千万円（44.3%）	※2017
商品販売額	136,071 千万円（70.0%）	※2017
観光客入込数	12,279 千人（37.9%）	※2018

スマート農業の実証（一人で２台を操作）

にぎわいを生む県都のまちづくり
（福井市中央公園）

２　施策の方向性（2020～2024 年度）



（１）新幹線開業に向けたまちづくり

○福井駅周辺

福井駅西口広場の整備やえちぜん鉄道の高架化などに続き、福井駅東口拡張施設の整備や駅西側の再開発などにより、県都の賑わいづくりを推進します。

- 福井駅東口拡張施設の整備（福井市）
- 福井駅西側の再開発への支援（県、福井市）
- 福井城址周辺道路等の整備（福井市）
- 福井城址公園のあり方の検討（県、福井市）
- 県都デザイン戦略に基づくまちづくりの推進（県、福井市）

○芦原温泉駅周辺

本県の北の玄関口にふさわしい駅となるよう賑わい空間等を整備するとともに、東西広場やアクセス道路の整備、二次交通の充実により、地域交通の拠点化を進めます。

- 駅周辺賑わい空間、西口、東口広場、東西自由通路等の整備（あわら市）
- 西口および東口アクセス道路の整備（県、あわら市）
- 西口立体駐車場の整備（あわら市）

○新たな移動サービスの実現

これまで実証試験が進められてきた自動運転技術の実用化、日常の移動も視野に入れた観光型ＭａａＳなど、新技術や新たな手法を活かした移動サービスを実現します。

・レベル３の自動運転技術を住民や観光客の移動手段として実用（永平寺町）
・交通機関の検索・予約・決済や観光施設等と連携したサービスを一体的に提供する観光型ＭａａＳの実現（県、市町、民間）

福井駅（イメージ）
＜提供：鉄道・運輸機構＞

芦原温泉駅（イメージ）
＜提供：鉄道・運輸機構＞

自動運転技術の実証

芦原温泉駅西口駅前広場
（イメージ）

（２）観光拠点の磨き上げ

○一乗谷ミュージアム化の推進

日本最大の戦国城下町の跡がそのまま残る一乗谷朝倉氏遺跡を、誘客の核として磨き上げるとともに、将来にわたり遺跡を保存・活用していくための調査・研究を進めます。

・遺跡の価値や魅力を楽しみながら学べる一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）の整備（県）
・戦国時代の生活や文化を、よりリアルに、より楽しく体感できる体験メニューの充実（県、福井市）
・遺跡の保存技術の確立に向けた（独）国立文化財機構奈良文化財研究所との連携研究の実施（県）
・特別名勝庭園朝倉氏遺跡庭園の保存・活用（県、福井市）

○観光受入れ環境の整備

地域の歴史や自然を活かした観光施設等の整備を進めます。

・東尋坊再整備基本計画に基づく魅力向上（県、坂井市）
・エリア内の二次交通が乗降自由となる周遊パス付ガイドブックの発行（福井市・永平寺町）
・芦原温泉駅西口にぎわい施設整備（あわら市）
・三国湊、吉崎御坊、丸岡城等の歴史文化スポットをつなぐ体験プログラムの作成（あわら市、坂井市）
・みくに龍翔館のリニューアル（坂井市）
・丸岡城の国宝指定を目指すとともに、周辺の賑わいを創出（坂井市）
・越前海岸水仙群の重要文化的景観選定、保存・活用の推進（福井市、南越前町、越前町）

一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）（イメージ）

丸岡バスターミナルの賑わい交流施設（イメージ）

○おもてなし産業の魅力向上

地域の産業や景観、食材等の魅力を活かした観光客等の受入れ態勢を整備し、おもてなしの力を向上します。

・新幹線を利用する客の消費拡大に向けた駅周辺の飲食店等の改装などを支援（県）
・東尋坊、永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡等におけるオリジナルの土産品等の開発を支援（県）

（３）産業の活力創造

○食と農のプラットフォーム形成

九頭竜川下流域パイプラインが整備された水田や、高品質の園芸作物を産出する坂井北部丘陵地・三里浜砂丘地、農業試験場・畜産試験場・食品加工研究所などの試験研究機関、県立大学や園芸カレッジ等の人材育成機関が集積する立地環境を活かし、食と農が連携して地域の発展を目指す「食と農のプラットフォーム（総合基盤）」を形成し、食と農の魅力を高めていきます。

・ＩＣＴ等を活用したスマート農業の推進（県）
・農地の集積・集約、スマート農業の効果を最大限発揮する基盤整備の推進（県）
・排水性の良い畑作地帯のフル活用と機械化による特産園芸や水田園芸の推進（県）
・県内最大の若狭牛生産地の生産体制強化を支援（県）
・農業試験場や畜産試験場において、優良品種の開発や種子の生産、省力・低コスト技術や飼養技術の研究開発を推進（県）
・食品加工研究所等の支援による、新商品の開発促進、農商工連携による６次産業化の推進（県）
・県立大学創造農学科や園芸カレッジ等において農業人材を育成（県）
・「越前がれい」に新たなプレミアムブランドを創出（県）

○林業・水産業の活性化

＜林業＞

森林資源が充実していく中、資源を循環させる森、保全する森に分け、主伐と再造林の促進による循環型林業経営を進めます。

・集落単位で取り組むコミュニティ林業を推進（県、民間）
・低コストにつながる列状間伐の拡大を推進（県、市町）
・総合グリーンセンターにおける新製品や特用林産物の優良系統の開発、林業カレッジにおける人材育成（県）

＜水産業＞

新技術を活かした養殖生産の拡大や天然資源の持続的利用、若手漁業者の確保・育成、安定した県産稚アユの供給による遊漁者の拡大等を進めます。

・漁港の未利用エリアを活用し、新たにイワガキやウニを増養殖（県）
・「越前がに」の稚ガニが多い海域の情報を漁業者がリアルタイムに共有するシステム（デジタル操業日誌）を構築し、稚ガニを保護（県）
・アワビやサザエ等の磯根資源を回復するための種苗放流や藻場造成（県、市町）
・内水面総合センターにおける稚アユの安定生産（県）

○未来に向けた新ビジネスの創出

ＡＩやＩｏＴの活用、企業や試験研究機関、大学等の技術やアイデアを組み合わせ、新たなビジネスを生み出します。

・ふくいＡＩビジネス・オープンラボを活用した新技術開発、ビジネス化（県）
・オープンイノベーションによる研究開発・事業化の推進（県）
・工業技術センターが中心となり、超小型人工衛星や炭素繊維などの研究開発を進め、航空・宇宙産業クラスターを形成（県）
・ふくい産業支援センターや商工会・商工会議所等と協力し、創業や人材育成、新商品開発、販路開拓などを支援（県）

○産業団地の整備、企業誘致

テクノポート福井の産業用地を拡充し、新たな企業を誘致します。

・新たな用地を段階的に造成。福井港、工業用水、公共下水などの充実したインフラや、グリーンベルトをアピールして企業誘致を推進（県、福井市、坂井市）

福井県立大学あわらキャンパス

ふくいＡＩビジネス・オープンラボ

（４）地域産業と暮らしの安全を支える基盤整備

○福井港の整備、利用拡大

嶺北の産業と安心を支え、地域経済の活力を生み出す拠点港として、港湾機能の強化を図るとともに、利用拡大を進めます。

・北防砂堤延伸工事の推進（県）
・岸壁や護岸等、港湾施設の長寿命化と耐震化を推進（県）
・防波堤等の多目的利用による誘客（県、民間）
・福井港を新規に利用する荷主や取扱貨物量が増加した継続利用荷主に対し助成（県）

○道路等の交通ネットワークの整備

地域間の拠点をつなぎ、観光・物流・産業等の交流を拡大・活性化するための道路整備を推進します。福井港へのアクセス向上や地域間の交通円滑化のため、東西および南北の道路交通ネットワークの強化を進めます。また、地域鉄道の安全・安定運行への支援や利用促進を図ります。

・国道８号福井・石川県境部の４車線化促進（国）
・福井港丸岡インター連絡道路の整備推進（県）
・県道福井森田丸岡線（(仮称）新九頭竜橋）の整備推進（県）
・福井鉄道やえちぜん鉄道の安全・安定運行への支援、利用促進（県、沿線市町、民間）
・ＪＲ越美北線の利用促進（県、沿線市、民間）

○県土強靭化の推進

頻発・激甚化する自然災害から県民の生命や財産を守り、将来にわたり安全で活力のある地域をつくるため、災害に強い基盤整備を推進します。

・足羽川ダムの建設促進（国）
・九頭竜川上流ダムの再生（国）
・九頭竜川、日野川の河道掘削、堤防強化の促進（国）
・底喰川、竹田川など河川改修、伐木や浚渫の推進（県）
・龍ケ鼻ダム、永平寺ダム、河川管理施設などの老朽化対策の推進（県）
・九頭竜川流域下水道の老朽化対策や耐震化の推進（県）
・田ノ谷川（福井市田ノ谷町）などでの砂防堰堤等の整備（県）
・福井市薬師町などでの治山ダム等の整備（県）
・県道福井金津線などの道路施設の老朽化対策、防災対策、雪対策等の推進（県）

福井港北防砂堤延伸工事

竹田川の改修（築堤）

Ⅱ　奥越地域

１　将来イメージ（2040 年頃）

○日本一の星空にも選ばれた六呂師高原や刈込池の雄大な自然と野外活動、天然記念物に指定された恐竜化石や発掘現場など、**ほんものの大自然を体感するエリア**

○福井と中京を結ぶ「東西交流軸」の拠点として、産業団地や道の駅を中心に**新たに人や企業が集まり交流する新産業集積エリア**

○中世宗教都市の歴史を感じる白山平泉寺、越前大野城やその城下町など、**奥越前の歴史遺産ブランドエリア**

○農地・森林を保全し、その豊かな農山村の資源を活かした農林水産業の振興と６次産業化による、**にぎわいと活力の里地里山ビジネスエリア**

○構成市町

大野市
勝山市

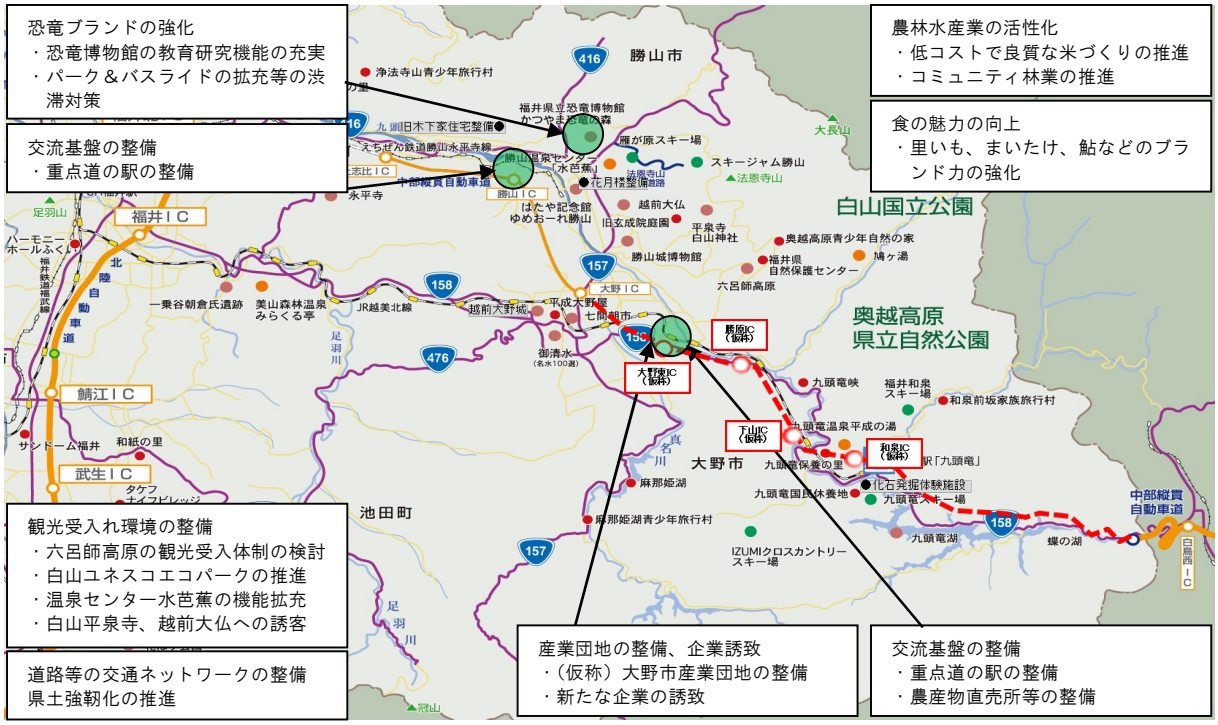
○主要データ

項　　目	データ（県全体に占める割合）
面　　積	1,126.31 ㎢（26.9%）　※2019
人　　口	57,234 人（7.3%）　※2015
農業産出額	707 千万円（15.0%）　※2017
森林面積	95,997ha（30.8%）　※2018
製造品出荷額	12,073 千万円（ 5.7%）　※2017
商品販売額	5,541 千万円（ 2.8%）　※2017
観光客入込数	4,095 千人（12.6%）　※2018

六呂師高原

白山平泉寺

2　施策の方向性（2020～2024 年度）



（１）中部縦貫自動車道を活かすまちづくり

〇東の玄関口となる交流基盤の整備

中京・東海エリアとの交流のフロンティアとして、交流の基盤となる重点道の駅の整備・活用を進めます。

・重点道の駅の整備（「越前おおの　荒島の郷」「恐竜渓谷かつやま」）（県、大野市、勝山市）

重点道の駅「越前おおの　荒島の郷」
（イメージ）

重点道の駅「恐竜渓谷かつやま」
（イメージ）

（２）観光拠点の磨き上げ

〇恐竜ブランドの強化

世界に誇る恐竜化石の研究および情報発信の拠点として、恐竜博物館の機能強化を進めます。さらに、「福井といえば恐竜」とのイメージづくりを強化します。

・「オールシーズン体験可能な博物館にフルモデルチェンジ」をコンセプトに、収蔵庫増設や恐竜研究体験など恐竜博物館を機能強化（県）
・パーク&バスライドの拡充や混雑・渋滞情報発信の強化等、渋滞対策の推進（県）
・恐竜列車・バスの運行やホテルにおける恐竜ルームやロビーの改修を支援（県）
・福井駅前などでの恐竜モニュメントによる恐竜ブランドの強化（県）
・恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの推進（勝山市）

〇観光受入れ環境の整備

地域の歴史や自然を活かした観光施設等の整備を進めます。

・自然体験の充実など、六呂師高原の観光受入体制の検討（県、大野市）
・ＣＯＣＯＮＯアートプレイスを拠点とした文化・芸術の発信等（大野市）
・白山ユネスコエコパークの推進（大野市、勝山市）
・道の駅を訪れた観光客を周辺観光地に誘客する周遊ルート・マップの作成（大野市、勝山市、永平寺町）
・周遊観光案内サービスを提供できる観光コンシェルジュの育成（大野市、勝山市、永平寺町）
・温泉センター水芭蕉の機能拡充（勝山市）
・法恩寺山リゾートの整備（勝山市）
・白山平泉寺、越前大仏への誘客イベント等の実施（勝山市）

県立恐竜博物館

ＣＯＣＯＮＯアートプレイス

〇おもてなし産業の魅力向上

地域の産業や景観、食材等の魅力を活かした観光客等の受入れ態勢を整備し、おもてなしの力を向上します。

・歴史ある街並みに合わせた飲食店の改装などを支援（県）
・恐竜博物館、越前大野城、スキー場などにおけるオリジナルの土産品等の開発を支援（県）

（３）産業の活力創造

○農林水産業の活性化

＜農業＞

平坦地、中山間地それぞれの土地や気候条件に応じて育まれてきた農業の生産力をさらに高め、農家所得の向上につなげていきます。

・農地の集積･集約、新技術の推進により、低コストで良質な米づくりを推進（県）
・上庄大井地区（大野市）等において、水田の基盤整備を推進（県）
・農作業の機械化により省力化を進め、規模拡大や水田園芸を推進（県、市、民間）

＜林業＞

森林資源が充実していく中、資源を循環させる森、保全する森に分け、主伐と再造林の促進による循環型林業経営を進めます。

・集落単位で取り組むコミュニティ林業を推進（県、民間）
・低コストにつながる列状間伐の拡大を推進（県、市）

○食の魅力の向上

里いも、キクなど消費者が求める農産物の生産・販売を促進し、地域特産物のブランド力を強化するとともに、地域食材を使用した料理メニューや商品の開発・提供により、食の魅力で地域のにぎわいと活力を創出します。

・里いも、まいたけ、鮎など、地域の風土に育まれた農林水産物のブランド力の強化（県、市町）
・共同選果場の活用により、高品質で統一規格の農産物を安定供給・販売し、ブランド力を向上（県、市町）
・道の駅を核とした直売所や農家レストランなどの施設整備や里山里海湖ビジネスの人材育成を支援し、地域食材を使用した料理メニューや商品の開発・提供により６次産業化を推進（県、市町）
・本県最大の酪農地帯において、おいしい生乳の加工品の開発を推進（県、民間）

○産業団地の整備、企業誘致

中部縦貫自動車道の大野東ＩＣ（仮称）附近に産業団地を整備し、新たな企業を誘致します。

・（仮称）大野市産業団地を整備。本県の東の玄関口としての立地環境を活かし、中京方面からの企業誘致を推進（県、大野市）

列状間伐施業地

（仮称）大野市産業団地

（４）産業と暮らしの安全を支える基盤整備

○道路等の交通ネットワークの整備

地域間の拠点をつなぎ、観光・物流・産業等の交流を拡大・活性化するための道路整備を推進します。中京と福井を結ぶ東西軸の新たな玄関口となり、交流人口増加、企業立地促進、安全・安心の確保に重要な役割を担う中部縦貫自動車道の整備を進めます。また、地域鉄道の安全・安定運行への支援や利用促進を図ります。

・中部縦貫自動車道の整備促進（国）
・県道皿谷大野線の整備推進（県）
・えちぜん鉄道の安全・安定運行への支援、利用促進（県、沿線市、民間）
・ＪＲ越美北線の利用促進（県、沿線市、民間）

○県土強靭化の推進

頻発・激甚化する自然災害から県民の生命や財産を守り、将来にわたり安全で活力のある地域をつくるため、災害に強い基盤整備を推進します。

・九頭竜川上流ダムの再生（国）
・真名川砂防事業の推進（国）
・大蓮寺川などの河川改修、九頭竜川などの伐木や浚渫の推進（県）
・笹生川ダム、浄土寺川ダム、河川管理施設などの老朽化対策の推進（県）
・サギ谷川（大野市蕨生）などでの砂防堰堤等の整備（県）
・大野市上黒谷などでの治山ダム等の整備（県）
・国道１５７号などの道路施設の老朽化対策、防災対策、雪対策等の推進（県）

中部縦貫自動車道　九頭竜川橋（仮称）

大蓮寺川河川改修（放水路整備）

Ⅲ　丹南地域

１　将来イメージ（2040 年頃）

○越前漆器、越前和紙、越前打刃物、越前焼、越前箪笥の５つの伝統工芸や眼鏡・繊維など長い歴史を有する地場産業と電子・化学等ハイテク産業が集積し、**伝統と革新が融合する最先端のものづくりエリア**

○高い技術を有する地場産業や先端技術産業、豊かな自然を活かした農林水産業などに魅力を感じて集まった移住者、女性、外国人など**様々な人たちが共生しチャレンジするエリア**

○越前海岸における越前水仙群などの景観、生き物に配慮した環境保全型農業の水田地帯、北国街道の今庄宿や鉄道遺産など、**行き交う歴史や自然が魅力の街道新交流エリア**

○伝統的民家や農家民宿などに滞在し、伝統工芸・クラフト体験や農業体験など地域の営みを楽しむ**新たな「しごととくらし」の観光エリア**

○構成市町

鯖江市
越前市
池田町
南越前町
越前町

○主要データ

項　　目	データ（県全体に占める割合）
面　　積	1,006.78 ㎢（24.0%）　※2019
人　　口	184,783 人（23.5%）　※2015
農業産出額	972 千万円（20.6%）　※2017
森林面積	78,019ha（25.0%）　※2018
製造品出荷額	84,511 千万円（40.1%）　※2017
商品販売額	27,825 千万円（14.3%）　※2017
観光客入込数	7,330 千人（22.6%）　※2018

越前古窯博物館

越前水仙（越前町梨子ヶ平）

2　施策の方向性（2020～2024 年度）

（１）新幹線開業に向けたまちづくり

○南越（仮称）駅周辺

新駅となる南越（仮称）駅を整備するとともに、駅前広場や道の駅、アクセス道路などを整備します。

- 駅前広場、道の駅の整備（県、越前市）
- 国道８号や武生インターチェンジと駅を結ぶアクセス道路の整備（県）
- 駅からの二次交通の充実（県、越前市）

南越（仮称）駅（イメージ）
＜提供：鉄道・運輸機構＞

南越（仮称）駅鳥瞰イメージ

（２）観光拠点の磨き上げ

〇観光受入れ環境の整備

地域の歴史や自然を活かした観光施設等の整備を進めます。

・ラポーゼかわだの機能強化（鯖江市）
・北府駅鉄道ミュージアムの整備（越前市）
・紫式部公園・藤波亭の再整備（越前市）
・ツリーピクニックアドベンチャーいけだの拡充（池田町）
・木工体験施設「ウッドラボ」の移転・拡充（池田町）
・物販施設や観光案内施設を備えた南条ＳＡ周辺地域振興施設の整備（南越前町）
・越前海岸から日本海の眺望を楽しむ視点場の整備（越前町）
・伝統工芸を活かした体験商品の造成、情報発信の強化（鯖江市、越前市、越前町）
・越前海岸水仙群の重要文化的景観選定の推進（福井市、南越前町、越前町）
・今庄宿の重要伝統的建造物群保存地区選定の推進（南越前町）

南条ＳＡ周辺地域振興施設（イメージ）

ツリーピクニックアドベンチャーいけだ

〇おもてなし産業の魅力向上

地域の産業や景観、食材等の魅力を活かした観光客等の受入れ態勢を整備し、おもてなしの力を向上します。

・南越（仮称）駅周辺や歴史ある街並みに合わせた飲食店等の改装などを支援（県）
・伝統工芸品等を活用した土産品等の開発を支援（県）

（３）産業の活力創造

○ものづくり産地の活性化

越前和紙、越前漆器、越前打刃物、越前焼、越前箪笥の５つの伝統的工芸品産地の集積を活かした新たなものづくり産地を目指します。

・伝統工芸職人塾による後継者育成、デザイン支援、産地ガイドツアーなど販路開拓等の強化（県）
・体験・見学機能を備えた工房併設型ショップの開設支援による産業観光の充実（県）
・ＲＥＮＥＷや千年未来工藝祭など、若者の力を活かした産地活性化の支援（県、鯖江市、越前市、越前町）
・ものづくりキャンパスにおけるデザイン相談や講座の開催、試作品の開発支援など、企業のニーズに応えるデザイン支援を充実（県）
・めがね会館へのＳＤＧｓ推進プラットフォーム（仮称）の整備（鯖江市）

○地域産業の魅力拡大

ＩＴ関連企業のサテライトオフィス誘致などを進め、魅力ある仕事や働き方を生み出していきます。

・空き家などを活かしたサテライトオフィスの誘致、オフィス環境整備支援（県、市町）

ＲＥＮＥＷ

中心市街地の空き店舗を活用した
サテライトオフィス

○農林水産業の活性化

＜農業＞

平坦地、中山間地それぞれの土地や気候条件に応じて育まれてきた農業の生産力をさらに高め、農家所得の向上につなげていきます。

・無農薬栽培等による環境にやさしい農業を支援（県、市町）
・農地の集積・集約、新技術の推進により、低コストで良質な米づくりを推進（県）
・漆原下野田地区（鯖江市）等において大区画農場の整備を推進（県）
・農作業の機械化により省力化を進め、規模拡大や水田園芸を推進（県、市町、民間）

＜林業＞

森林資源が充実していく中、資源を循環させる森、保全する森に分け、主伐と再造林の促進による循環型林業経営を進めます。

・集落単位で取り組むコミュニティ林業を推進（県、民間）
・低コストにつながる列状間伐の拡大を推進（県、市町）

＜水産業＞

新技術を活かした養殖生産の拡大や天然資源の持続的利用、若手漁業者の確保・育成などを進めます。

・漁港の未利用エリアを活用し、新たにイワガキやウニを増養殖（県）
・「越前がに」の稚ガニが多い海域の情報を漁業者がリアルタイムに共有するシステム（デジタル操業日誌）を構築し、稚ガニを保護（県）
・アワビやサザエなどの磯根資源を回復するための種苗放流や藻場造成（県、市町）
・水産カレッジにより水産業に就業する人材を育成（県、市町）

○食の魅力の向上

農産物直売所や農家レストラン等において、地域食材を使用した料理メニューや商品の開発・提供により、食の魅力で地域のにぎわいと活力を創出します。

・道の駅を核とした直売所や農家レストランなどの施設整備の支援（県、市町）
・ふくい農業ビジネスセンターを拠点として、農家民宿や農家レストラン等の里山里海湖ビジネスを運営する人材を育成（県）
・「越前がれい」に新たなプレミアムブランドを創出（県）
・食品加工研究支援施設「食ラボ」を活用し、地域の食材や食文化などを活かした商品化を支援（池田町）

（４）地域産業と暮らしの安全を支える基盤整備

○道路等の交通ネットワークの整備

地域間の拠点をつなぎ、観光・物流・産業等の交流を拡大・活性化するための道路整備を推進します。新幹線新駅である南越（仮称）駅が地域交通の拠点となるとともに、各地域における観光・産業拠点をつなぐ道路ネットワークの強化を進めます。また、地域鉄道の安全・安定運行への支援や利用促進を図ります。

・国道４１７号冠山峠道路の整備促進（国）
・県道南越駅線、武生インター線の整備推進（県）
・国道３６５号梅浦バイパス、栃ノ木峠道路の整備推進（県）
・福井鉄道の安全・安定運行への支援、利用促進（県、沿線市、民間）

○県土強靭化の推進

頻発・激甚化する自然災害から県民の生命や財産を守り、将来にわたり安全で活力のある地域をつくるため、災害に強い基盤整備を推進します。

・国道８号敦賀防災の整備促進（国）
・足羽川ダムの建設促進（国）
・吉野瀬川ダムの建設推進（県）
・天王川などの河川改修、伐木や浚渫の推進（県）
・広野ダム、桝谷ダム、河川管理施設などの老朽化対策の推進（県）
・番清水川（越前市東樫尾町）などでの砂防堰堤等の整備（県）
・南越前町板取などでの治山ダム等の整備（県）
・国道３０５号などの道路施設の老朽化対策、防災対策、雪対策等の推進（県）
・越前漁港の事業継続計画（ＢＣＰ）に基づく対策の実施（県、越前町）

国道４１７号冠山峠道路の整備

吉瀬川ダムの建設（イメージ）

Ⅳ　嶺南地域

１　将来イメージ（2040 年頃）

○京都・大阪との近接性、自然や歴史・文化・食の魅力、安心の子育て環境を活かし、嶺南から関西に通勤し、創造的に働きながら文化的・健康的に過ごせる**くらしの先進地「ＷＡＫＡＳＡリフレッシュエリア」**

○スマートエネルギーエリアの整備、デコミッショニング（廃炉）ビジネスの育成、新たな試験研究炉を核とした研究・人材育成の拠点化や産業創出により、**人や企業が集まる嶺南Ｅコーストエリア**

○新幹線や敦賀港のクルーズ船からの外国人が三方五湖や鯖街道、人道の港、漁家民宿など**嶺南の自然と歴史を楽しむインバウンドリゾートエリア**

○人々の手で守り継承されてきた伝統芸能・祭り、寺社仏閣、食文化などを学び、交流する**伝統文化を学び体感するエリア**

○構成市町

敦賀市
小浜市
美浜町
高浜町
おおい町
若狭町

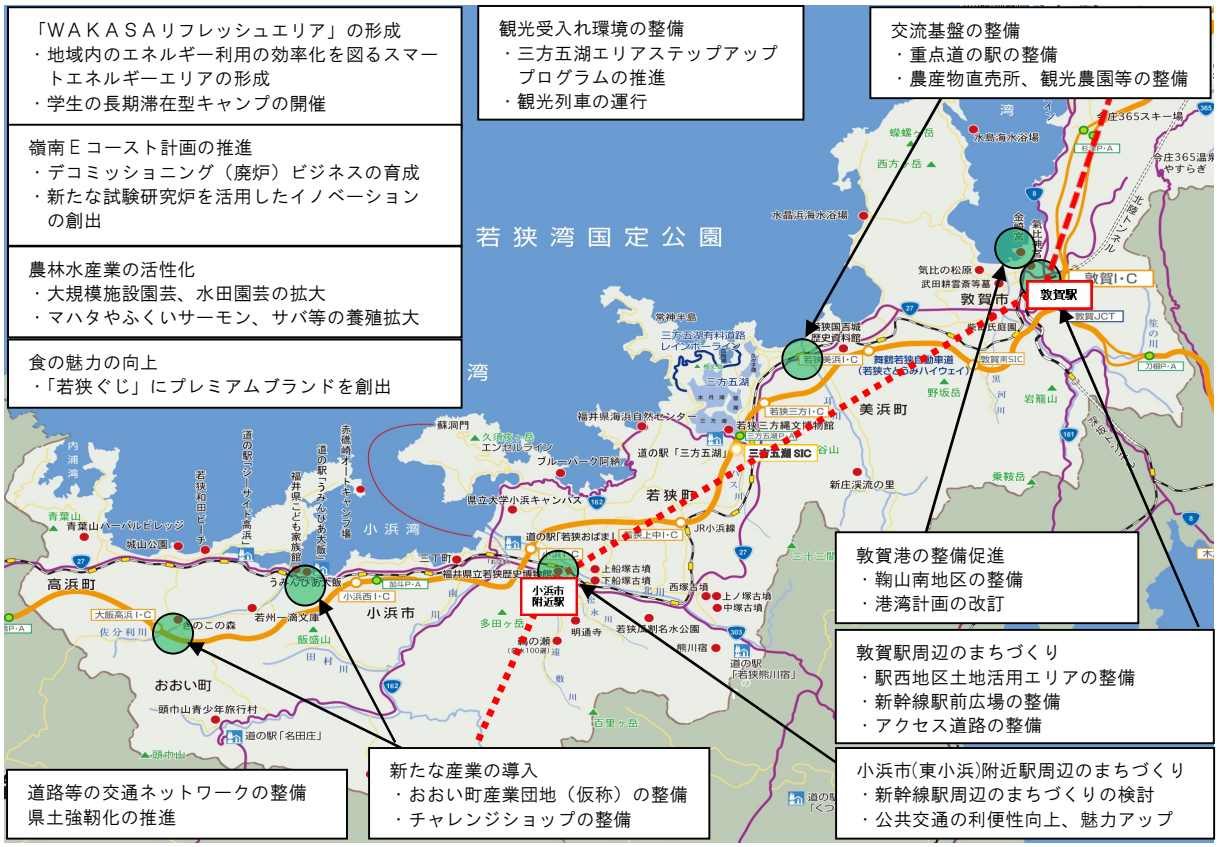
○主要データ

項　　目	データ（県全体に占める割合）	
面　　積	1,099.95 ㎢（26.2%）	※2019
人　　口	139,927 人（17.8%）	※2015
農業産出額	622 千万円（13.2%）	※2017
森林面積	87,430ha（28.0%）	※2018
製造品出荷額	20,775 千万円（ 9.9%）	※2017
商品販売額	25,080 千万円（12.9%）	※2017
観光客入込数	8,733 千人（26.9%）	※2018

小浜西組重要伝統的建造物群保存地区

クルーズ客船の寄港

2　施策の方向性（2020～2024 年度）



（１）新幹線開業に向けたまちづくり

○敦賀駅周辺

敦賀駅の始発･終着駅効果を嶺南全域の観光や産業の活性化につなげるため、新幹線駅前広場やアクセス道路の整備を進め、新幹線・ＪＲ・並行在来線のターミナル駅としての交通ハブ機能を強化します。

・敦賀駅西地区土地活用エリアへの官民連携施設の整備（敦賀市）
・アクセス道路の整備（県）
・新幹線駅前広場等の整備（敦賀市）
・地域づくり拠点化施設（重点道の駅「美浜（仮称）」）の整備（国、美浜町）

○小浜市（東小浜）附近駅周辺

新たな玄関口となる新幹線小浜市（東小浜）附近駅周辺のまちづくりについて、舞鶴若狭自動車道小浜ＩＣや道の駅、小浜駅周辺の市街地との関係・つながりを考慮し、検討を進めます。

・新幹線駅周辺のまちづくりの検討（小浜市）

○「ＷＡＫＡＳＡリフレッシュエリア」の形成

将来の北陸新幹線大阪開業に向け、関西との近接性を活かして、まちづくりや産業のプレイヤーを呼び込み、嶺南で文化的・健康的に生活できるエリアを形成します。

＜都市との近接性を活かしたライフスタイル先進地の形成＞

関西に通勤し、または嶺南で創造的に働きながら、文化的・健康的に暮らせる生活エリアを形成

・ＶＰＰ技術により地域内のエネルギー利用の最適化を図る、スマートエネルギーエリア形成を促進（県、市町、民間）

・古民家や民宿を週末居住者向けのゲストハウス・シェアハウスに改修（市町、民間）

・ＩＣＴや５Ｇ等を活用した共同利用サービス等、コミュニティビジネスを支援（県、市町）

＜人と人とのつながりを活かした、まちづくりや産業のプレイヤー育成＞

地域・住民とともに、新しい地域づくりやビジネスにチャレンジする人の育成・呼び込み

・ＩＣＴを活用したスマート農業・水産業等、フード・コーストを担う人材の誘致・育成（県、市町）

・学生などとのネットワークを活かした関西圏への情報発信強化（県）

・関西学生と地域が多様に関わる長期滞在型キャンプの開催（県、市町）

＜豊かな自然や歴史・文化、食を活かしたリフレッシュコンテンツの充実＞

海湖や歴史等のＷＡＫＡＳＡの魅力を楽しみ、リフレッシュできる施設・アクティビティを充実

・自然を活かしたアウトドアスポーツや歴史のまち歩き等、日常的に楽しめるＷＡＫＡＳＡの体験プログラムを充実（県、市町）

・寺社での外国語ガイドや地域の祭事への参加等、インバウンドもＷＡＫＡＳＡを体験できる環境の整備（県、市町）

＜ＷＡＫＡＳＡの玄関口の形成と地域交通ネットワークの強化＞

より短時間で近畿圏から往来・エリア内を移動できるインフラの整備

・先端技術を活用したＭａａＳの導入検討やＪＲ小浜線の利用促進、広域バスの運行など二次交通を充実（県、市町）

敦賀駅（イメージ）
＜提供：鉄道・運輸機構＞

都市部住民が地域課題解決にチャレンジ

（２）観光拠点の磨き上げ

〇観光受入れ環境の整備

地域の歴史や自然を活かした観光施設の整備等を進めます。

・年縞博物館の魅力向上（県）
・赤礁崎オートキャンプ場の魅力向上（県）
・里海湖の景色を堪能するサイクリングロード形成（県、市町）
・三方五湖エリアステップアッププログラムに基づく周遊ツアーや体験メニューの充実、漁家民宿のレベルアップなどの推進（県、市町）
・人道の港敦賀ムゼウムのリニューアルオープン（敦賀市）
・名勝おくのほそ道の風景地けいの明神（氣比神宮境内）の保存活用（敦賀市）
・史跡金ヶ崎城址の保存活用整備（敦賀市）
・小浜西組重要伝統的建造物群保存地区での歴史と伝統文化、生活の体験エリア等の整備（小浜市）
・再生可能エネルギーを活用した電池推進船および関連施設の整備（美浜町）
・城山荘、城山公園の再整備（高浜町）
・高浜漁港に市場レストランや物販機能を備えた６次産業施設を整備（高浜町）
・西の鯖街道および「八ヶ峰～頭巾山」のトレッキングコース整備（高浜町）
・頭巾山青少年旅行村の再整備（おおい町）
・スポーツ・文化体験交流合宿受入施設の拡充（おおい町）
・熊川宿重要伝統的建造物群保存地区での古民家改修などの交流施設の整備（若狭町）
・河内川ダムの周辺整備、若狭トレイルの整備（若狭町）
・熊川エリアおよび新庄エリアのトレイルコースの周遊や連携などの推進（美浜町、若狭町）
・海外クルーズ客船の誘致強化（県）
・観光列車の運行（県、市町）

三方五湖

城山公園

頭巾山青少年旅行村の再整備
（ホテル流星館）

年縞博物館

○おもてなし産業の魅力向上

地域の産業や景観、食材等の魅力を活かした観光客等の受入れ態勢を整備し、おもてなしの力を向上します。

・若狭の魅力ある食を活かしたメニュー等を提供する飲食店の改装などを支援（県）
・地元食材にこだわった土産品等の開発支援（県）

（３）産業の活力創造

○「嶺南Ｅコースト計画」の推進

多様なエネルギーを活用した産業活性化やまちづくりを目指し、人・企業・技術・資金が集まるエリアの形成を図ります。

・エネルギー利用の効率化を図るスマートエネルギーエリアの形成に向けて、コンパクトなスマートタウン、シェアＥＶ※等を整備するとともに、ＥＶ等の蓄電池を活用して電力需給を調整するＶＰＰシステムの実証実験を実施（県、市町、民間）
・廃止措置工事への県内企業の参入や製品技術の研究開発を促進（県、民間）
・新たに整備される試験研究炉の利活用を促進し、イノベーション創出につなげるために、県内企業のニーズ掘り起しに向けた周知活動や利用支援を実施（県）

※シェアＥＶ：会員間でＥＶ（電気自動車）を共同利用するしくみ

○農林水産業の活性化

＜農業＞

安価な電気料金を活かした大規模施設園芸の拡大、スマート農業の推進や圃場の大区画化等による生産基盤整備などを進めます。

・イチゴやトマト等の周年栽培が可能な大規模施設園芸を拡大（県）
・ウメ、ナシ、ミカンの既存果樹産地の生産基盤を強化（県、市町）
・ＩＣＴを活用したスマート農業や敦賀西部地区（敦賀市）等での圃場整備の推進により、生産性を向上（県）
・農作業の機械化により省力化を進め、規模拡大や水田園芸を推進（県、市町、民間）
・園芸研究センターに少量多品目有機栽培園を設置し、有機志向農家の活動を支援（県）

＜林業＞

森林資源が充実していく中、資源を循環させる森、保全する森に分け、主伐と再造林の促進による循環型林業経営を進めます。

・集落単位で取り組むコミュニティ林業を推進（県、民間）
・低コストにつながる列状間伐の拡大を推進（県、市町）

＜水産業＞

新技術を活かした養殖生産の拡大や天然資源の持続的利用、若手漁業者の確保・育成などを進めます。

・県産種苗によるマハタやふくいサーモン、サバなどの養殖拡大、ブランド化を推進（県）
・環境にやさしい魚類とナマコとの複合養殖を推進（県）
・アワビやサザエなどの磯根資源を回復するための種苗放流や藻場造成（県、市町）
・養殖への新魚種導入や技術開発などを学ぶ県立大学増養殖学科の開設（県）
・県立大学、地元高校、沿海１１市町、民間等が相互に連携する「ふくい水産振興センター」において、共同研究や産業支援、人材育成を推進（県）
・水産カレッジにより水産業に就業する人材を育成（県、市町）

○食の魅力の向上

農産物直売所や農家レストラン等において、地域食材を使用した料理メニューや商品を開発・提供するほか、園芸に関する体験学習を開催するなど、食の魅力で地域のにぎわいと活力を創出します。

・農産物直売所や農家レストラン等の整備支援および地域食材を活かした料理提供を推進（県、市町）
・園芸体験施設「園芸ＬＡＢＯの丘」で、「学ぶ」「楽しむ」「食べる」の実体験を通して、園芸を楽しみながら理解を深める体験学習を開催（県）
・「若狭ぐじ」に新たなプレミアムブランドを創出（県）

○産業団地の整備、企業誘致

舞鶴若狭自動車道の大飯高浜ＩＣ附近に産業団地を整備します。また、新たな企業の誘致を進めます。

・おおい町産業団地（仮称）の整備（おおい町）
・小浜市や若狭町に加え、敦賀市、美浜町、おおい町に新たに整備した団地に、安価な電気代など地域特性を活かした企業誘致を推進（県、市町）
・新規創業や新事業展開に挑戦するチャレンジショップの整備（おおい町）

若狭美浜インター産業団地

ふくいサーモンの養殖生簀

（４）地域産業と暮らしの安全を支える基盤整備

○敦賀港の整備、利用拡大

新たな企業進出や交流拡大による地域経済の活性化のため、効率的な次世代の日本海側ターミナル港の実現に向け、港湾計画を改訂し港湾機能の強化を図るとともに、利用拡大を進めます。

・増大する貨物需要に対応する敦賀港鞠山南地区の整備（国、県）
・岸壁や護岸等、港湾施設の長寿命化と耐震化を推進（国、県）
・敦賀港を利用する荷主、物流事業者に対する支援（県）
・敦賀港に新たに定期航路を開設する運航船社に対する助成（県）

○道路等の交通ネットワークの整備

地域間の拠点をつなぎ、観光・物流・産業等の交流を拡大・活性化するための道路整備を推進します。関西圏からの玄関口であり、交流人口増加、企業立地促進、安全・安心の確保に重要な役割を担う舞鶴若狭自動車道の４車線化を進めます。また、ＪＲ小浜線を中心とした公共交通の利便性向上を図ります。

・舞鶴若狭自動車道４車線化の整備促進（民間）
・県道坂本高浜線の整備推進（県）
・ＪＲ小浜線を中心とした公共交通の利便性向上、魅力アップ（県、沿線市町、民間）

○県土強靭化の推進

頻発・激甚化する自然災害から県民の生命や財産を守り、将来にわたり安全で活力のある地域をつくるため、災害に強い基盤整備を推進します。

・国道８号敦賀防災の整備促進（国）
・国道１６２号西津橋、城内橋、大手橋の整備推進（県）
・北川の河道掘削・堤防強化の促進（国）
・笙の川、多田川などの河川改修、伐木や浚渫の推進（県）
・大津呂ダム、河川管理施設などの老朽化対策の推進（県）
・井根谷川（小浜市東相生）などでの砂防堰堤等の整備（県）
・敦賀市杉箸などでの治山ダム等の整備（県）
・国道１６２号などの道路施設の老朽化対策、防災対策、雪対策等の推進（県）
・小浜漁港の事業継続計画（ＢＣＰ）に基づく対策の実施（県、小浜市）

敦賀港鞠山南地区の整備

主要地方道坂本高浜線の整備

長期ビジョンの実現に向け、市町との協働により各地域のプロジェクトを進めていきます。各市町の総合計画は次のとおりです。

〇各市町の総合計画

地域	市町名	目指す将来像・基本理念	計画年次
福井坂井	福井市	みんなが輝く 全国に誇れる ふくい	2017～21
	あわら市	暮らしやすくて 幸せを実感できるまち	2016～25
	坂井市	輝く未来へ…みんなで創る希望のまち ～子どもたちの夢を育む“ふるさと”を目指して～	2020～29
	永平寺町	めぐる感動 心つながる清流のまち えいへいじ	2017～26
奥越	大野市	ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち	2011～20 【新計画策定中】
	勝山市	小さくてもキラリと光る誇りと活力に満ちた ふるさと勝山 「まるごとジオパーク」の魅力を活かした「ワクワクする ときめきに満ちたまち勝山」	2017～26
丹南	鯖江市※	～世界のめがねの聖地 SABAE の確立～	2020～24
	越前市	国府の文化と匠の技、日野の山川に育まれひとづくり、ものづくり、まちづくりの活力みなぎる「元気な自立都市 越前」	2018～21
	池田町※	「豊国の農村」	2016～20
	南越前町	海と緑と歴史の恵みに抱かれて、出会いから活力の花ひらく町	2015～24
	越前町	人と技 海土里 織りなす 快適なまち ～越前Ｅ－ｔｏｗｎ ｂｒａｎｄのさらなる躍進～	2016～25
嶺南	敦賀市	世界をつなぐ港まち　みんなで拓く交流拠点都市　敦賀	2011～20 【新戦略策定中】
	小浜市	「夢、無限大」感動おばま ～自然と文化が織りなす地域力結集プラン～	2011～20 【新計画策定中】
	美浜町	みんなで　創り　絆ぎ　集う　美し美浜	2016～25
	高浜町	美しい自然を舞台に、一人ひとりが主役になる 暮らしたい、働きたい、訪れたいまち　高浜町	2011～20 【新戦略策定中】
	おおい町	輝く笑顔がうみだす希望　情熱よせ合うふるさと“おおい” ～みらいへの贈物　魅力創生をあなたとともに～	2017～26
	若狭町	新しい感動と笑顔がひろがるまち	2018～22

※鯖江市、池田町は総合計画を策定していないため、地方版総合戦略について記載